



## 次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年6月16日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1-1」

### これまでの議論を踏まえた整理 ② －余白の創出を通じた教育の質の向上－

#### 【改訂を機に行うべきこと】

#### 1 標準授業時数の弾力化による計画時数の適正化

各教科の標準を下回って生み出した調整授業時数を他教科等や「裁量的な時間」に充当可能とするなどし、教師と児童生徒の双方に「余白」を生み出し、豊かな教育活動につなげる仕組（調整授業時数制度）に係る議論

- ① 仮に特定の教科等が標準授業時数を下回る見込みとなった場合、年度途中で他教科や「裁量的な時間」から当該教科等に時数を充てることも念頭においた制度設計
- ② 調整授業時数制度の下では「不測の事態で標準を下回る」「進度が遅れ時数が足りなくなる」等の懸念は相当程度解消可能。年度当初の計画段階では真に必要な時数を設定し、年度途中で柔軟なマネジメントを行うことが基本



#### 2 学習指導要領の構造化・表形式化・デジタル化

構造化・表形式化・デジタル化（生成 AI の活用も含む）を「三位一体」で進めることによる記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化

#### 3 構造化を踏まえた教科書等の在り方

学習指導要領の構造化の考え方を踏まえた、教科書の内容の精選

## 学校と社会

実業家 渋沢栄一

学校出身の青年は、実社会においては徒弟である。

学校において得たる智識は、必ずしも実社会の知識と同視し難い。否、学校教育は、実社会に出づる準備に過ぎない。本当の智識、生きた学問は実社会に立ってはじめて習得するものである。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 教職もしかり、です。